

一 農村社会の方向性と活性化

明治大学 長谷川 昭彦

はじめに

現在の日本農村は、時代の転換にあること、そして活力を失って停滞的な状態にあるという二重の意味で危機的状況にありと思う。この故に、現在こそ新たな農村社会建設の方向性を確認し、停滞化の要因を考察し、地域社会活性化のための方策を検討することが必要であろう。

一 日本農村社会の展開

農村社会の方向性を求める前に、戦後から現在までの日本の農村の変化を産業構造の変化に応じて、次ぎように考えたい。

①農業化社会＝村落共同体が残存し、農村共同社会の形成が志向される。

②工業化社会＝過疎・公害・農産物過剰が問題となり、広域地域社会の形成が志向される。

③情報化社会＝国際社会の影響を直接に受け、苦悩する農村社会。

二 地域社会停滞化の要因

このような諸段階を経て、現在の農村社会が停滞的な状態に陥った諸要因を次のようにまとめてみたい。

- ①経済的高度成長とともになう地域間格差

高度経済成長期に、産業構造の工業化への急激な転換により、先進地域と後進的地域との間に地域間格差が生じ、人口や労働力の地域間移動を促して、多くの日本の農山村を過疎地域と化した。

②農業の技術革新と外国農産物の輸入

構造改善事業や農地の基盤整備が進み、生産の技術が発展したことにより、農業の生産性が向上したが、外国農産物の輸入により、日本の食糧生産の自給率は大幅に低下し、コメをはじめとする各種の農業生産物は生産過剰となつた。そして、一九七〇年代以来、稻作の生産調整の政策が実施されて、日本農業の将来に暗い陰影を与えた。

③国民の生活体系の変化と生活の質の向上

農村住民の生活体系の変化・生活の質の向上は、交通体系の整備、生活基盤の整備、余暇施設・福祉関係施設を必要とした。そのかわりには地域内で収入を確保する道が少なく、多くの農山村では対応ができかねて停滞していった。

④地域的伝統文化の枯渇

農山村の伝統的な文化は、村民をその土地に引き付けておく強力な紐帶であったが、種々の理由で否定され、枯渇したところが多く、このことはさらに入々のその郷土社会への帰属意識を弱め、停滞化していく要因となつた。

三 地域社会変動の方向性

現在の日本の農村は、その抱えている問題を解決し、農村社会の将来への方向を展望することが必要であろう。その不運性として私は次の二点をあげたい。

①広域地域社会

サービスの基地であり、社会的交流の中心である都市との機能的連関性を増して、中心都市の回りに農村を配置した広域地域社会形態が志向される。

②地域複合社会

地域の異質化が進み、主観的に無関心となつた隣人間でも地域問題の解決のためには住民の自治活動が必要である。異質的となつた諸個人や諸集団の間の機能的連関性に基づき、分業や民主主義の原理によって再編し、再結合した組織体を地域複合社会という。

③新しいコミュニティ

最近の日本では、共同体的関係に対比させて、任意性・自発性をもつた開放的な集団組織の関係を「新しいコミュニティ」と呼ぶことが多い。このような「新しいコミュニティ」は、「家」と「村」に代わって新しい地域社会の社会関係の方向を示すものといえよう。

四 農村地域社会活性化の方策

これらの方向性に則って、停滞的な日本の農山村の活性化の方策とその問題点を次のようにまとめることができる。

①地域社会活性化の目標ないし理念の再検討

高度経済成長期は「豊かさ」や「利便性」の追求であったが、それは「新たな貧困」を生じ、最近ではむしろ「生活向上」「福祉社会の追求」ないし「美しい村作り」というように微妙に変化してきた。

②地域産業の確立

若年労働力を確保し、若者の定住条件を確立するためには地域農業を中心とした産業構造の再編が必要である。一九七〇年代末ころ

から、地域の資源を有効に利用して地域経済を活性化しようとする
「一村一品運動、地域特産物、一・五次産業運動などの「地域産業興
し」の運動が盛んになってきた。

③地域基盤・施設設備の整備充実

農村生活の基礎的条件としての地域の環境や地域基盤の整備を図
るべきである。特に、土地利用体系を新たな生活体系に対応するよ
う調整・再編し、それにもとづいて諸施設を配備する計画が必要で
ある。現在の段階では、基盤や施設の整備の実行はまだ十分である
とはいえないが、その積み重ねは、地域の活性化の第一歩といえる。

④新しい人間関係・社会組織の建設

古い農村の社会関係は封鎖された共同体的関係であったが、新し
い人間関係は、開かれた任意性をもった合理的で、しかも民主的な
社会関係が必要とされる。そのために諸種のサークルやグループの
活動をテコとし、新しいコミュニティの建設が展望される。

⑤伝統文化の再生と新しい地域文化の建設

世少年時代に身につけた郷土の文化は成人になり、他の所に出て
行った人に対しても根強くそのパーソナリティに影響を持つ。そし
て地域文化は分散した人々を再結集する中核ともなる。この故に地
域文化の再生、そして新しい価値体系ないし地域文化の創出は農村
の地域振興の重要な柱となる。

終わりに

国際化時代はむしろ低経済成長の時代であり、むしろ前途には、
停滞・失業・不況というような困難性が横たわっているかもしれない。
とすれば、今からの地域社会の建設は、単に大きな施設を建て

たり、大規模な土木事業を起こすことのみではなく、地域の産業を
起こし、地域の組織を再編して、新しい社会関係を創造し、地域の
総福祉の増進を目指し、地域の活性化を図ることが重要であると思
う。